

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0475101549
法人名	社会福祉法人 共和会
事業所名	広瀬の郷
所在地 (電話番号)	宮城県仙台市青葉区大倉字大原新田26-12 (電話) 022-391-2082
評価機関名	特定非営利活動法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 20 年 12 月 10 日

【情報提供票より】(平成 20 年 11 月 15 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 21 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	16 人、非常勤 0 人、常勤換算 14.5 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000~28,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円
敷金	有() 円	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(11月 15日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	6 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.7 歳	最低	76 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮城共立病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人の広い敷地の中に地域包括支援センターと特別養護老人ホームがあり、寄り添うようにグループホーム「広瀬の郷」はある。「いきいき」と「ゆうゆう」の2ユニットが並んで建ち、落ち着いた日本家屋の外観になっている。開設は「いきいき」が平成15年、「ゆうゆう」が平成18年で、「いきいき」の使い勝手を改良して「ゆうゆう」を建てたという。各ユニットに洋室と和室があり、家賃は部屋の広さによって3種類の設定となっている。各ユニットは入居者と職員で織りなす個性が感じられ、職員が日々の暮らしを振り返って「入居者が自分の家族のように思えて和気あいあいのケアができていく」との感想をのべている。運営推進会議のメンバーに7名の町内会長がいるが、地域包括支援センターが管轄する地域からの参加になっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>①評価結果の改善計画作成②運営推進会議の充実③市との連携④外出支援⑤災害対策。①は実施されておらず今回も課題となった。②では学識者を加え、家族の参加は予定して進行中。③入居者関連での協力体制ができた。④車両の購入予定があり、随時の外出を可能にした。⑤備蓄はないが夜間想定での訓練が実施された。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>①10月に、法人が独自に行なった「自己評価」があり、この中から今回の外部評価に該当する項目について各ユニットの主任がまとめ、管理者が転記した。前回の外部評価で改善についての取り組みがなかったため、今回は目標をもって計画的に取り組まれることを期待したい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>奇数月を運営推進会議の開催と決めて実施されている。会議には同法人の地域包括支援センター1名と同センターが管轄する地域の町内会長7名と同じくその地域の民生委員4名、学識者1名のほか法人とグループホームの関係者が出席する。ホームの活動報告からはじまり、日々のケアの中からヒヤリハットの事例や職員が受けた研修についてなどを報告している。メンバーからは認知症についての質問が主で運営に関しての意見交換にまでは至っていない。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が訪問した機会をとらえて管理者が直接聞き取りを行うように努めている。第三者委員を設置しており、家族に分かりやすいように掲示もしてある。玄関に「意見箱」を置いているが、これまで投函されたことはない。運営推進会議での意見表出を期待して家族の参加を促している。「家族交流会」を開催したが出席は少なかった。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>所在する地域は住宅街からは離れているので、「近所付き合い」のできる環境にはない。町内会への加入はないが、行事への招待に応じることもある。ボランティアの訪問は盛んで演芸のほかに、毎月「茶道教室」が行なわれている。小学校から「学芸会」への招待がある。より一層の地域密着を視野に入れて「運営推進会議を通して地域とつながることを考えていきたい」としている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年12月、職員が研修で理念について学んだのをきっかけにして、ユニットごとに全員で取り組み考えられた。「いきいき」では「生きがいをもって気持ちのこもったケアを、いつも優しくゆったりと今日も一日笑顔でくらす」、「ゆうゆう」では「気づき、責任をもち行動を」となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念がケアの規範であることへの理解はしているものの、具体的なケアに結び付けて話し合い、全体で確認するなどにはされていない。個々の職員に日々のケアの中で理念が念頭にあるように思われるが、今後、職員会議や申し送りの際に理念に触れて話し合っていたきたい。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	住宅街から離れて位置していることもあって町内会には加入していないが、地区の文化祭や小中学校の運動会、学習発表会に招待されて参加している。手品や踊りの演芸や月に一度の「茶道教室」を教えてくれる方も来訪し、ボランティアが多い。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	10月に法人が行った「自己評価」によって、管理者は職員の考えていることが把握できて良かったとの感想であった。職員は日々のケアと評価の意義について結びつけるには至っていない。前年の外部評価の結果について、話し合いや検討が行なわれなかったのは残念である。	○	サービス評価の意義や目的について全員で話し合っていたきたい。外部評価の結果を踏まえて、目標・期間を決めた改善計画を作成し、改善に向けたサービス向上に役立てていただきたい。また外部評価結果は運営推進会議で取り上げ、実践での具体的なケアにつなげられるようにしていただきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実質活動は今年度からとなった。始まったばかりということもあって、ホームからの報告が主になっている。運営に関して検討は今後に期待したい。入居者やホームの活動状況、外部評価結果と改善の取り組みを報告し、意見・助言をいただいて地域とつながる協力体制や交流促進のための話し合いにしていきたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者関連で申請や相談をすることがある。仙台市が認知症に関する講習や研修を開催しているかどうかについて情報を得ていない状況にある。今後、総合支所の担当課を運営推進会議へ参加依頼することになっていることなので有効な連携をしていただきたい。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度、請求書に同封して、担当職員から入居者の状況を書いたお便りと定期受診の結果、預かり金の出納状況を報告している。法人が発行する季刊誌も郵送される。家族に伝えたいこと知りたいことに配慮してお便りを書くよう努めている。入居者の変化は随時、電話で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「意見箱」を置いているが、これまで投函されたことはない。家族が訪問した機会に管理者が聞き取るようにしている。個別の要望は即刻ケアに活かしている。今後、運営推進会議への家族参加をうながして意見表出につなげたいとしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交代がある時は、その都度入居者へ挨拶、紹介をしている。そのことを入居者は気にしていない様子だという。コミュニケーションを大切に、対応している。職員間で入居者に関する説明や引継ぎは行なっていない。人的環境の変化が、入居者との信頼関係の構築に及ぼす影響について話し合っていたいただきたい。	○	入居者、家族との信頼関係を築くためにも馴染みの職員が擬似家族として対応することが重要と考えられる。運営者には異動や離職を抑えるための努力や工夫をお願いしたい。止むを得ず職員が交代する場合には入居者への影響を検討し、説明や対応について話し合い、新しい職員への引き継ぎ方、家族への配慮にも留意していただきたい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間での計画はないが、外部研修の案内文書は回覧して受講を勧めている。研修への参加は出勤扱いの支援を行なっている。日々のケアについては主任が指導している。勉強会は設けていないが「理念の作り方」、「心身の状況ノート」は実践に活かされた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO県グループホーム協議会へ加入し、協議会が主催する実地研修の受け入れを行なった。研修では職員の情報交換の場にもなっており、サービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	訪問調査で管理者の顔を覚えてもらうことから始め、その後ホームを訪ねてもらう。お茶を飲みながらホームの雰囲気を感じ、くつろいでもらえるように配慮している。入居から慣れるまで1ヶ月の期間を目安とし、コミュニケーションを大切に、安心して生活できるケアに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の準備から下膳までを入居者と一緒に行なっている。生活の知恵を教えられることが多い。特に季節ごとの行事や調理では入居者に教えられることが多い。夜勤の時に入居者から感謝の言葉をかけられ、職員はやりがいを感じたと言う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で入居者の様子や言葉、表情などから汲み取るようにしている。声を掛けてそれとなく確認することもある。意志の表出が困難な入居者の場合は家族から聞き取るなど把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の視点で個別の介護計画を作成し、必要な支援を盛り込んでいる。家族と話し合った要望や、かかりつけ医の意見、受診記録も反映されている。東京センター方式を用いて課題に沿った目標を設定し、ケアに活かしている。計画書は家族に渡されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のカンファレンスで計画の見直しを検討している。ケース記録や支援経過記録、担当職員から聞き取るなどの情報からモニタリングし、状態変化、要望など必要に応じた見直しを行なっている。また入居者の情報、記録、把握の仕方については両ユニットが話し合ってより良いケアに取り組まれるようにしていただきたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期での受診には職員が付き添う。家族との外泊、訪問理容、移動図書館の利用など入居者と家族の暮らしの継続性を守るために職員は柔軟な支援を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関を主治医としており、定期での受診は職員が付き添っている。入居者や家族の希望する入居前からのかかりつけ医を受診することもできている。医師の助言や処方などについて受診結果を記録し、情報の共有化を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでは施設設備の面から重度化対応には限度があることを入居時に口頭で説明している。そのことから同法人の特別養護老人ホームへの申し込みを同時に行なうよう勧めている。ホームで生活できるかの判断は主治医の意見を仰ぐこととしている。文書による合意はされていない。	○	家族・医師・職員を交えて話し合い、「重度化に対する対応指針」について文書化し合意を得られたい。家族へはホームが対応できる最大のケアについて説明し、重度化に伴う「意思確認書」によって方針の共有をしていただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室の出入りは入居者の同意を得て行なっている。トイレや着替えなどを誘導する言葉かけは、入居者が恥ずかしい思いをしないよう何気なくするように配慮している。個人情報などの記録文書は施錠して保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、入浴、食事、就寝など入居者のペースを大事にし、入居者の意向にそった過ごし方をしている。入居者の希望を実現できる環境づくりと満足してもらえる気配りを大切にして、入居者本意のケアに努めたいとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは同法人が作成する。入居者は調理から盛り付け、下膳まで一緒にしている。月に1～4日が「オリジナルメニュー」で職員と入居者が一緒になって楽しみ、嗜好やアイデアが発揮されている。「食事が一番の楽しみ」との入居者の声も聞かれたことから両ユニットで同じように楽しめるように配慮していただきたい。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	いつでも入浴することができる。マンツーマンでの支援を行ない、入居者に好みの入浴剤を選んでもらったり、昔話などしながら職員と個別のひと時を過ごしている。入浴したがる入居者には声がけの時間や雰囲気を見計らうなどして誘い、気持ちよく入浴してもらえるよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	茶道教室は両ユニットの入居者が一緒に行ない交流することができる。家事や洗濯物たたみ、畑仕事、体操など有する力を発揮する様子は日常的にみられるという。「干し柿」や「すいとん汁」は入居者の経験が活かされる場面になっている。移動図書、訪問理容、手芸など個人の楽しみも多彩になっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気晴らしの敷地内散歩やドライブに出かけている。散歩は転倒による怪我や職員が手薄になることに、事業所は強い不安をもっているためか十分とは言い難い。入居者の気分や希望に応じて、心身の活性化につながるよう個々の入居者にあわせた戸外への外出支援を工夫していただきたい。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠することを常態化していない。入居者の外出傾向は事前に把握しており、その様子を察知したさいには本人の気を紛らわすよう話しかけたり、安全面に配慮して一緒についていくようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成、年2回の防災訓練を実施している。2回の内訳は消防署立会いの通報・消火訓練と入居者を加えた夜間想定避難訓練である。同敷地内施設との協力体制はあるが、地域の協力はない。地域防災組織や地区消防団との協力連携が望まれる。備蓄についても対応をしていただきたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成し、栄養のバランスに考慮したメニューとなっている。食事量、水分量、排泄、服薬について毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。体重は月に一度計測し、健康管理に役立っている。入居者の状態にあわせた調理で摂取できている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆が集まる居間兼食堂には天窓があり自然光のやさしい陽が注いでいる。壁に貼られた「ちぎり絵」の皆で作ったカレンダーは大きく見やすい。居室を表わす表札と一緒に自作の作品が飾っており入居者の趣味がうかがえる。食事の時は空腹を思い出させる食卓のよい香りで満たされていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室と洋室があり、居室の広さに違いはあるが造りは同じようになっている。使い慣れたたんすや仏壇、遺影、家族の写真、作品などが持ち込まれ、賑やかに飾り付けられた居室からサッパリと片付いた居室まで、入居者の豊かな個性が活かされた居心地良さがうかがえた。		